

1. 研修実施実績

医療的ケア児等コーディネーター養成研修及び医療的ケア児等支援者養成研修

- 実施期間：講義 令和3年9月17日、9月24日
（コーディネーター養成研修及び支援者養成研修共通）
演習 令和3年10月28日、29日
（コーディネーター養成研修のみ）

○実施機関：地域生活支援課

○養成実績 ※令和元年度は、堺市在住者を含む。

年度	令和元年度※	令和2年度	令和3年度	計
コーディネーター研修修了者	33	17	17	67
支援者研修修了者	128	132	105	365

1. 調査概要

調査時期 令和3年度12月

調査対象 大阪府内43市町村

調査内容

- ・令和3年度末時点での医療的ケア児等コーディネーターの配置の有無
- ・配置しているコーディネーターの配置場所、職種、活動内容、回数
- ・令和4年度以降のコーディネーター養成数、職種・今後に向けた課題等を選択式及び記述式にて回答

2. 配置状況（43市町村）

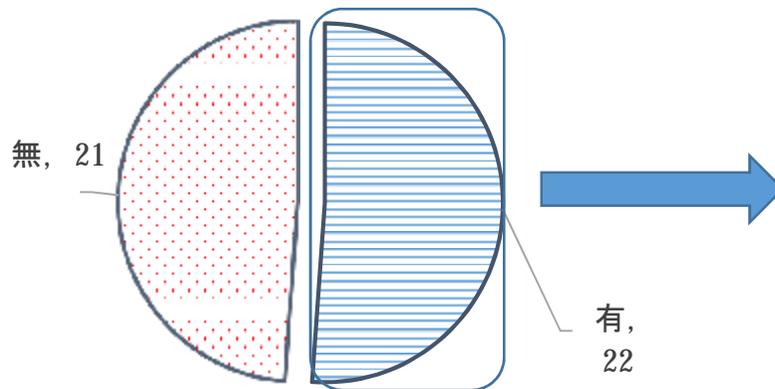
- 配置有22市町、配置無21市町村（令和3年度末時点）
- 配置有と回答した22市町村における配置形態・配置数

市町村単独で配置・1名	13市町村
市町村単独で配置・2名	5市町村
市町村単独で配置・3名	3市町村
市町村単独で配置・5名以上	1市町村

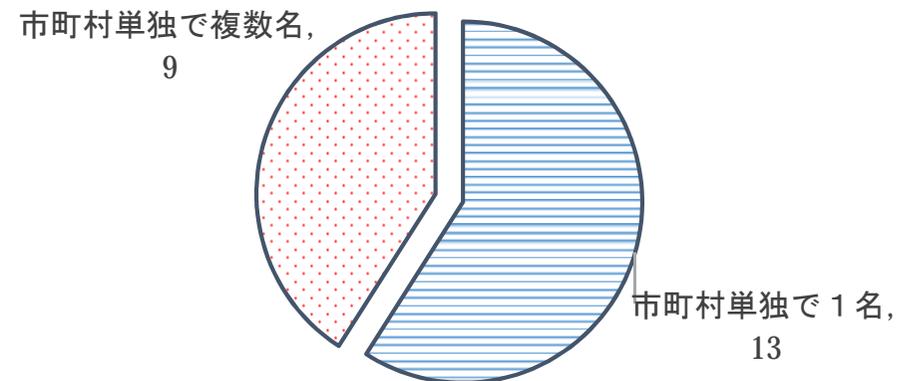
※5名以上を配置する市では、市内を圏域ごとに担当するコーディネーターを配置している。
- 未配置の市町村における課題

昨年度の調査では、「役割の明確化」を課題として指摘する意見が12市町よりあったが、今年度の調査においては、「役割の明確化」は3市町村である。「管内の体制を考慮して有意義な配置する場所を検討中。」等の配置に向けて、管内の課題を検討する回答がある一方で、「管内の医ケア児者の数事例が少ない。」「人材が不足している。」との回答もあった。

市町村における配置状況



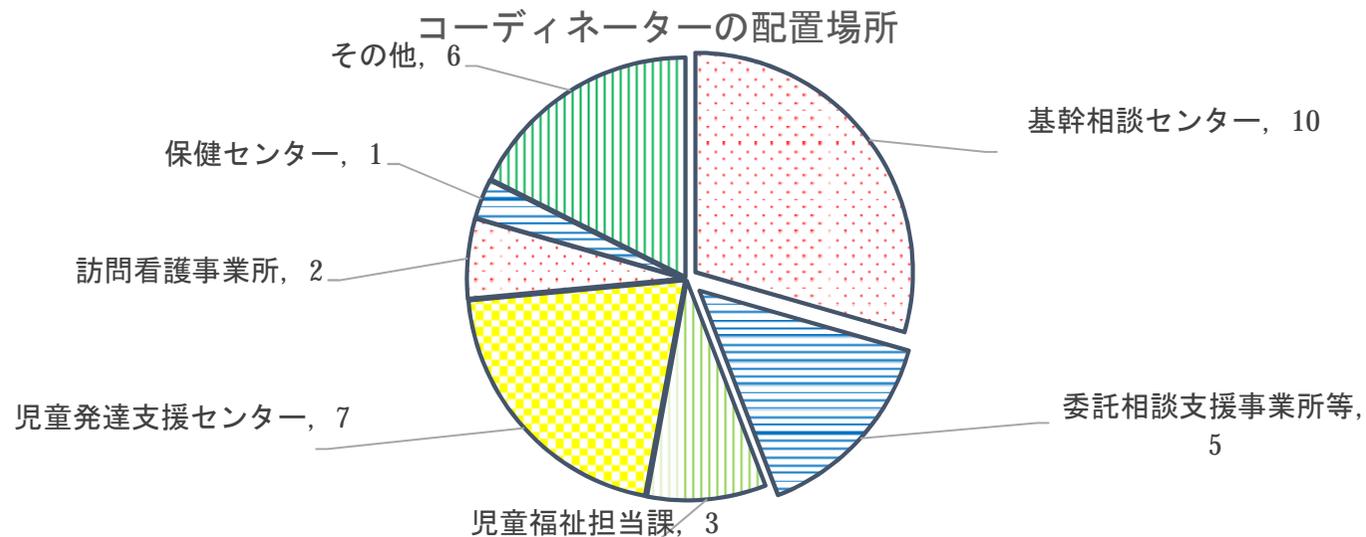
コーディネーター配置有の内訳



3. 配置場所（41市町村）

- ・ 21市町村 34名（令和3年度末時点）
- ・ 最も多いのは基幹相談支援センター、委託相談支援事業所であり、計15名。
昨年度調査においても、相談支援事業所に配置しているとの回答が最も多い。
配置場所の傾向は昨年同様であるが、配置事業所数は昨年度より増加している。
- ・ 複数名のコーディネーターを配置している場合の例では、
基幹相談支援センターと委託相談支援事業所等
基幹相談支援センターと児童発達支援センター
など、配置場所を分けている場合や、児童福祉担当課に2名配置するなど、1つの配置場所に複数名のコーディネーターを配置している場合があった。
- ・ その他には、特定計画相談支援事業所、歯科医師個人に依頼等があった。

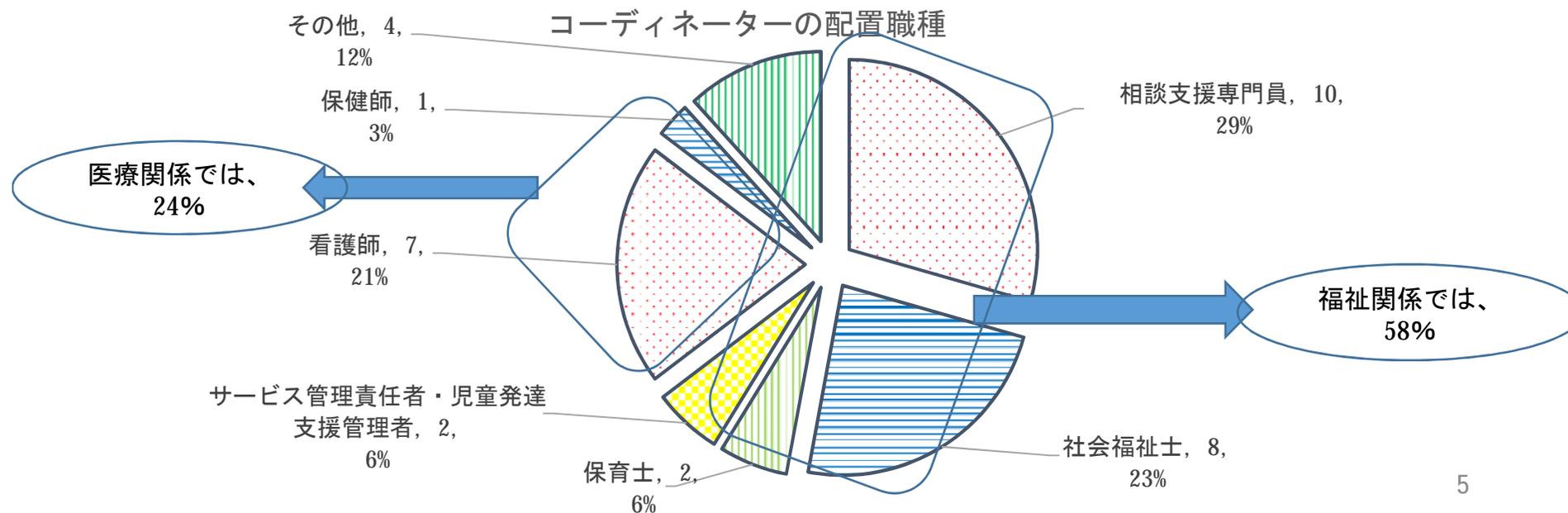
※大阪市、堺市は、それぞれ独自にコーディネーター養成研修を実施し、配置体制の考え方も異なることから、分けて分析を行った。



4. 配置職種（41市町村）

- 34名の配置職種は、以下の円グラフのとおり。
相談支援専門員、社会福祉士、保育士を福祉関係として集計すると20名となり、全体の58%となっている。（昨年度調査では16名）
- 看護師、保健師の医療関係は8名で全体の24%となっている。昨年度調査では、2名であることから、医療職の研修修了及び、配置が昨年度より増えてきている。
- 市町村が、今後配置を予定している職種は以下の回答であった。各市町村福祉関係1名、医療関係1名には届いていない（配置について検討中で、未回答の市町村があると推測される。）

職種	看護師	相談支援専門員	保健師	社会福祉士	社会福祉主事	保育士	その他
人数	11	11	7	3	1	1	4



5. 活動状況（41市町村）

- ・ 34名の活動の内訳と頻度は次ページの図のとおり。
- ・ 協議の場への参加は、7割を超えている一方、協議の場ではなく、その他の会議体にのみ参加している場合もあった。
- ・ 直接的な支援やスーパーバイズ（SV）については、昨年度調査では、活動しているとの回答は4名であったが、今年度は直接支援やSVのいずれか、またはその両方に取り組んでいるコーディネーターが16名いる。うち、令和3年度の研修修了者1名を除いては、直接支援やSVといった活動を行うとともに、協議の場、その他会議のいずれかに参加しており、小さなケアマネジメントを大きなケアマネジメントにつなげる取組みが始まっていることがうかがえる。
- ・ その他の活動として、
 関係機関向けにコーディネーター説明会を実施
 管内の実態調査を目的に、当事者の家庭にヒアリングを実施
 ケース支援以外の関係者との連絡調整
 等があり、医ケア児者支援のネットワークづくりや資源開発に向けた動きが始まっている。
 ※活動頻度については、令和3年度研修修了者が含まれることから、活動回数が少ない方も含まれる。

コーディネーターの活動例①

A市コーディネーター

配属場所：基幹相談支援センター

職種：社会福祉士

活動内容：

- ・ 相談支援専門員としてケースの直接支援
- ・ 基幹相談支援センター職員として他の相談支援事業所のケースへのSV
- ・ 自立支援協議会の医ケア児等支援の協議の場を運営、コーディネート

コーディネーターの活動例②

B市コーディネーター

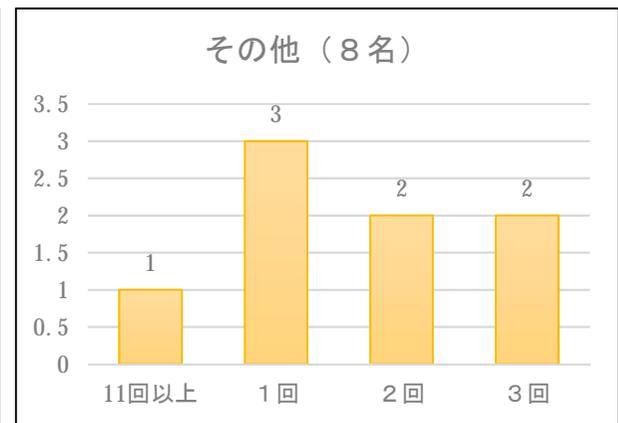
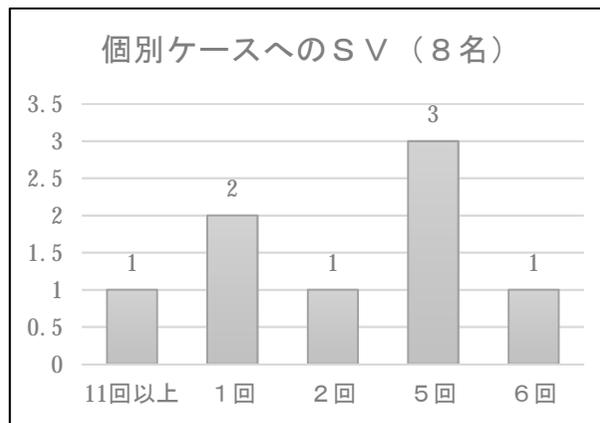
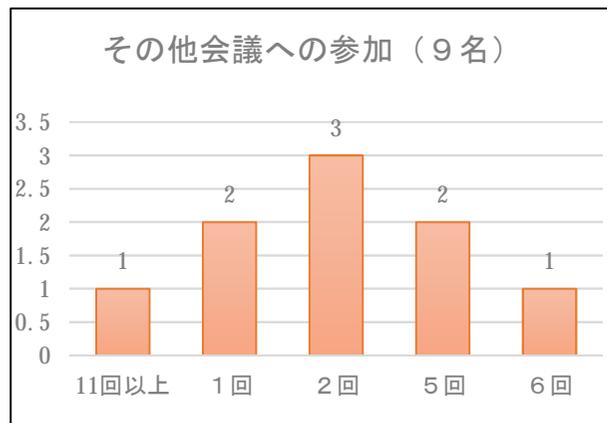
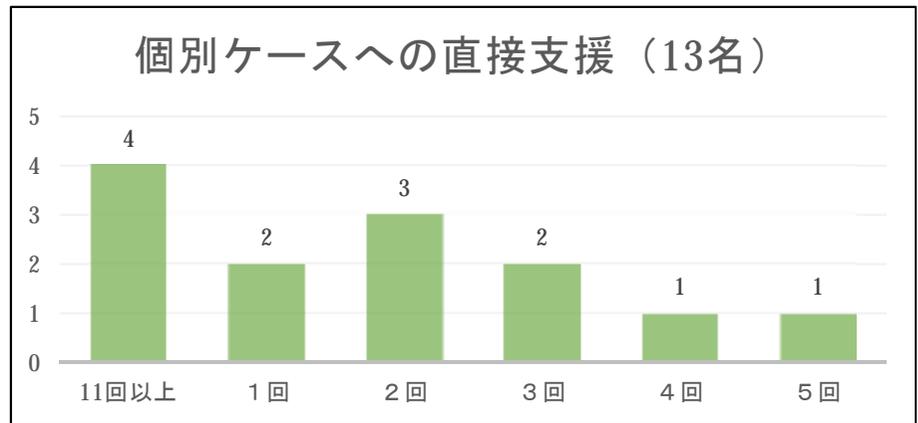
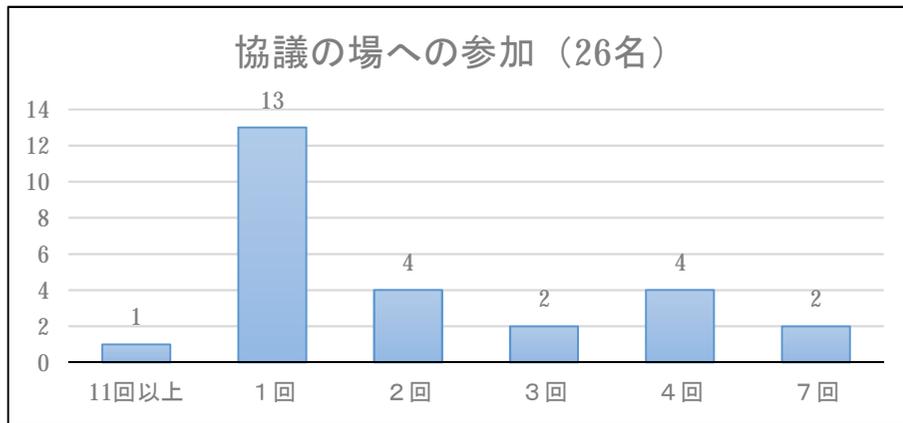
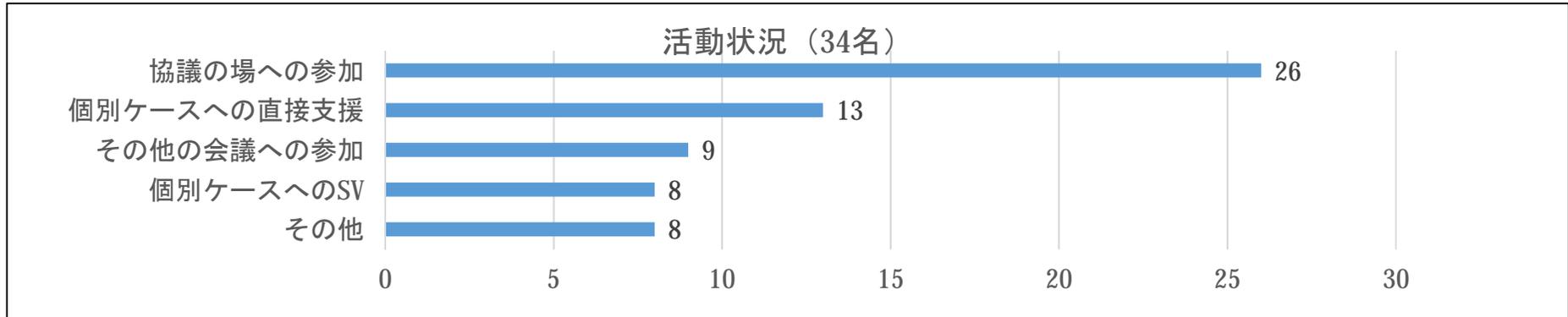
配置場所：児童発達支援センター

職種：看護師

活動内容：

- ・ 児童発達支援センターにおいて、医療的ケアが必要となる通所児童への直接支援
- ・ 他の職員へのSV
- ・ 協議の場にコーディネーターとして参加、資源開発等に向けて意見交換

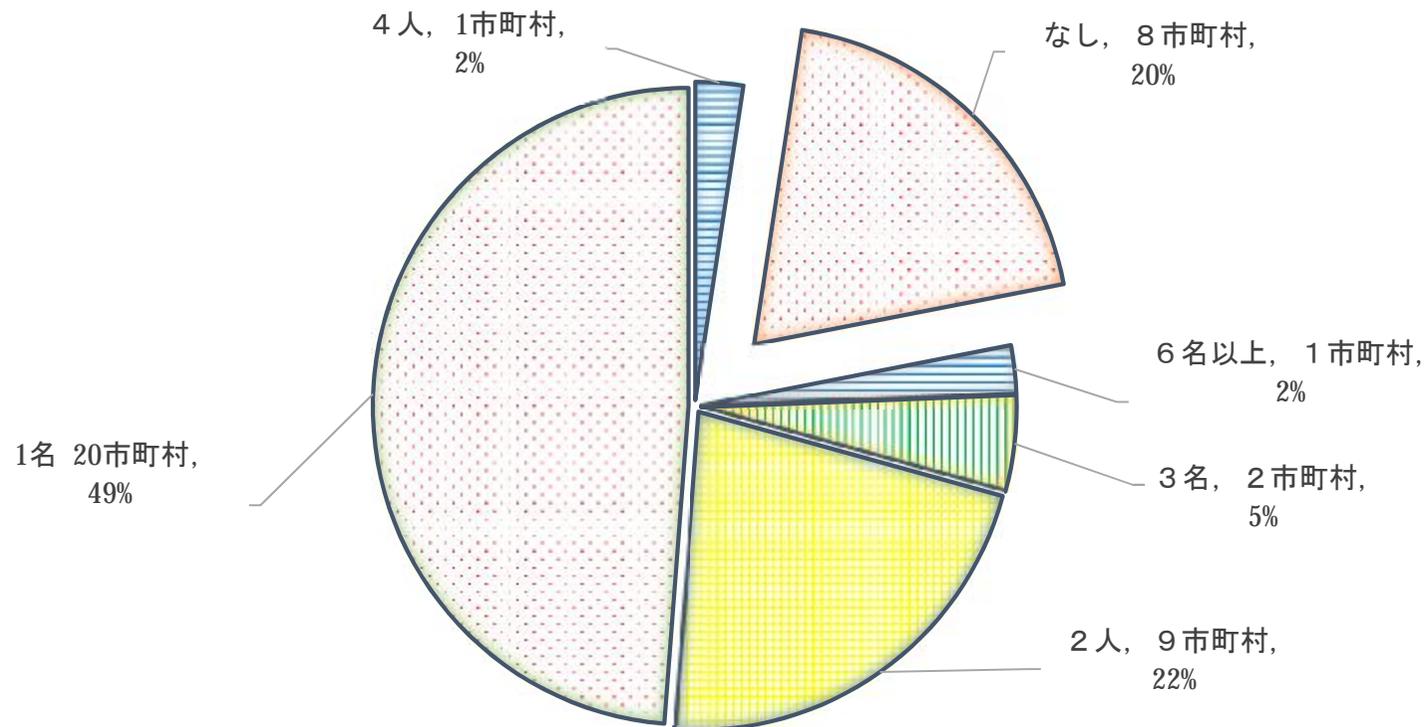
2 令和3年度 医療的ケア児等コーディネーター配置・活動調査について



6. 今後の展望①

◆令和4年度の配置予定

- ・ 令和4年度に配置完了すると回答したのは33市町村。
- ・ 内訳は右記のとおり。
- ・ 8市町村は令和4年度においても配置予定がないと回答した。
- ・ 令和4年度以降の研修の受講について29市町が受講希望と回答しており、引き続き、医療的ケア児等コーディネーターの養成を行っていく必要がある。また、研修の内容については、今後の配置職種を参考に多様な職種に対応できる研修構築が必要となっている。
- ・ 令和2年度末時点で、令和元年度、令和2年度の研修を受講しコーディネーターとして配置したが、異動により新たな養成が必要になったケースもあることから、継続した養成が必要との要望がある。



6. 今後の展望②

市町村アンケートから見える課題

- ・ 未配置の市町村の解消（役割の明確化、人財不足）
- ・ 「コーディネーターが周知されていない」、「浸透していない」
- ・ 医ケア児支援に関する各市町村の実態や課題の整理
- ・ コーディネーターのブラッシュアップ、フォローアップ、実践報告等の機会の確保



- ・ 府民がコーディネーターの存在を認識し、相談しやすい体制づくり
- ・ コーディネーターの活動の課題の把握や情報共有の仕組みづくり
- ・ 市町村における配置の促進のための役割の明確化、好事例の提供
- ・ 支援人材の継続的な養成

参考：令和3年度 大阪府医療的ケア児等コーディネーター情報連絡会

（内容）

大阪府医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者に対し、情報連絡会を実施する。

（概要）

大阪府医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者が活動の情報交換を行うことにより府内市町村の医療的ケア児支援、コーディネーター活動の動向を共有する。同研修のフォローアップとして、研修時に作成した目標から、各市町村での活動における現状と課題、今後の取り組みについて整理する。なお、研修受講年度は市町村によってばらつきがあることや、進度が異なる市町村の情報を広く集約することを目的とする。（情報連絡会の概要を後日、市町村医療的ケア児等支援担当課に情報提供することで、市町村が主体的に課題検討を行えるよう支援する。）

（実施時期・方法）

日時：令和4年2月17日（木）午前9：30～12：00

方法：Zoom

（プログラム）

- ・コーディネーター配置・活動状況について情報共有
- ・活動事例紹介
- ・演習「医療的ケア児等支援のためのネットワーク構築に向けて」
医療的ケア児等コーディネーターに期待される個別ケースへのつなぎ、個別ケースへのSV、地域課題抽出、機関コーディネート機能を意識しながら、情報集約、ネットワークづくりに向けて、各市の状況を整理し、今後の取組みを検討する。